



# 古道が紡ぐ物語



## 大道設置 1400 年の節目を迎える竹内街道 ～伊勢街道編①～

新企画「<sup>みち</sup>古道が紡ぐ物語」の連載にあたって

いにしえから人々が往来し、生活、文化交流を支えた「街道」。今なお街道沿いには風情あるまち並みや由緒ある寺社が残され、それらは街道と一体となって大いなる文化遺産を形成しています。本連載では、「<sup>みち</sup>古道が紡ぐ物語」と題し、各地域を有機的に繋ぐ街道に焦点を合わせ、まちづくりに奮闘する人々の取組をはじめ、沿道の歴史や風景を紹介していきます。

本年は伊勢神宮の式年遷宮（20年に1度、新たに社殿を建て<sup>かむくら</sup>神座を遷す）の年にあたることにちなみ、まずは伊勢街道沿いの各地域に注目し、初回はその伊勢街道の一部として発展を遂げ、今年で設置 1400 年の節目を迎える<sup>たけのうち</sup>竹内街道を紹介します。（以降毎月掲載）

### 1400 年活性化プロジェクトと竹内街道

#### ■10市町村による「1400年活性化プロジェクト」

一難波より京（飛鳥）に至る<sup>おおじ</sup>大道を置く。

『日本書紀』推古天皇 21（613）年 11 月の条に記された、この<sup>おおじ</sup>「大道（官道）」とほぼ同じルートを通ることから、竹内街道（堺市～葛城市）および横大路（葛城市～桜井市）は「日本最古の官道」と呼ばれる。

この大道設置から 1400 年という節目を迎える今年 3 月 30 日、竹内街道・横大路沿道の 10 市町村\*および奈良県・大阪府で構成される「1400 年活性化実行委員会」が、共同宣言を発表。今後、「古代の道からまちづくり」を共通理念として、ウォーキングやサイクリングなどを企画していくという。

\*太子町（会長）、葛城市（副会長）をはじめ、大和高田市、橿原市、桜井市、明日香村、大阪市、堺市、松原市、羽曳野市が参加。



竹内街道から脇へと逸れる小径。風情ある大和棟の屋敷が立ち並ぶ

#### ■竹ノ内街道保存会（葛城市）の取組

竹内街道沿いに形成され、街道とともに発展してきた歴史をもつ竹内集落。かつて司馬遼太郎をして「大和で一番美しい」と言わしめた集落の風景はしかし、街道や農村共同体の衰退・宅地開発などによって失われつつあった。

竹ノ内街道保存会は、竹内集落のかけがえのない古き良き景観を、住民自身の手で後世に残し伝えていくことを目指す団体である。

「まずは住民に対する勉強会やイベントを通じて、景観を大事にしようという風土の醸成が必要。ゆくゆくは、かつて山麓で見られた動植物の再生などを通じて、美しい里山の風景を取り戻したい」と同会の仲田正徳会長は語る。

同会では、奈良県のまちづくりコンシェルジュと協同して「まちづくりマップ」を作成しているほか、葛城市ボランティアガイドと連携したウォーキングの開催などによる活性化といった取組を続けており、1400 年を迎え一層の盛り上がり期待したい。



竹ノ内街道保存会の仲田会長と竹内街道

## 竹内街道の果たしてきた歴史的役割

前述のように、竹内街道は難波から飛鳥を結ぶ大道（官道）の一部として成立したが、大道の起源は、石器の材料であるサヌカイトを二上山で採掘するためのルートだったという。その後も、竹内街道は時代に  
 応じて数々の役割を担ってきた。



夕焼けに沈む二上山。才気煥発にして信望厚い人物ながら、24歳で自害に追い込まれた「悲劇の皇子」大津皇子が葬られたと伝わる  
 （写真提供：一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー）

まず、「外交の道」としての役割である。飛鳥時代に大道が敷設された目的の一つには、大陸からの使節に対し、日本の文明力を示威する意図があったと思われるが、やがて都が平城京に移ったことで、その役割を終えることとなった。



街道沿いに残る伊勢灯籠は、伊勢街道としての繁栄を今に伝える

続いては、太子信仰を支える「信仰の道」としての役割である。竹内街道沿いの太子廟（墓所）を守る叡福寺（太子町）は、太子信仰の中心地の一つであり、ゆかりの寺を巡る人々で街道は賑わった。その後も、

中世末に自治商業都市・堺が隆盛を迎えると大和と堺を結ぶ「経済の道」として、また近世に伊勢詣でが盛んになると「宗教の道」として栄えた。

そして設置から1400年を経た現在。竹内街道は新たに、まちづくりに取り組む地域を繋ぐ紐帯としての役割を果たそうとしている。

（太田宜志）

長尾神社（右）は竹内街道（右下）の東側の起点

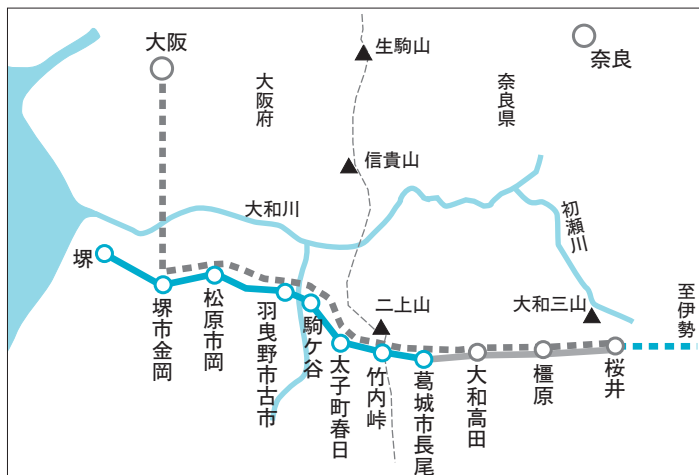


国道166号線（左上）と竹内街道（左下）。自動車が往来する国道とは対照的に、旧道はひっそりと静まり返っている

### 「竹内街道」の概要

難波と飛鳥の都とを結ぶ「大道（官道）」が起源とされる竹内街道は、大小路（堺市）を起点として途中竹内峠を越え、長尾神社（葛城市）に至る街道である。

更に東進すると、長尾神社～初瀬（桜井市）間の「横大路」、初瀬以東は「初瀬街道」「伊勢本街道」に接続し、最終的に伊勢神宮に至ることからも分かるように、後代には伊勢街道の一部としても栄えた。



竹内街道と大道

— 竹内街道 — 虚線 — 大道のコース — 横大路 — 初瀬街道・伊勢本街道